

お茶の間学Ⅱ

生活特報部 FAX 092 (711) 9056 メール seikatsu@nishinippon-np.jp

「ここに、50年かかって育った直径18センチ、長さ3メートルの木材が10本あるとする。それが1リットル（1立方メートル）ちゅう単位したい。これでいくらすると思っうね」。製材所や木材市場を訪ねた時、オジサンたちに質問されました。

山仕事に関わる家業に生まれ育ちながら、杉とヒノキの見分けすらつかない私には、皆目、見当も付きません。それでも、50年間も山で管理されてきたのだからと考え「10万円くらいですか」と答えると、オジサンたちは苦笑いしながら「その10分の1。8千〜1万円たい」。

もり
森林をつくらう
脊振の地から

5

佐藤和歌子

国産材の安さに驚く

1本あたりに換算すると、800〜千円。しかも、手入れをしようがしまいが、ほぼ同じ金額で取引されるということです。

「外国から安い木材が輸入されるから、高い国産木材は売れないう」という世間の常識とかけ離れた情報の格差にがくせんとしました。

ました。

知らないのは私だけだろうかと思ひ、あるイベントで1立方

メートル分の丸太を並べ、参加者に値段を当てるクイズをしてみました。

「5万円」「10万円」「50万円」「200万円」

皆、私同様、木のことについては、あまり知らなかったのです。

林野庁などのアンケートでは

「住宅を建てるなら木造」と答える人は8割以上。日本人のほとんどが、木に囲まれた生活を希望しているのですが、木材の価格を知っている人は、ほとんどいないわけです。

まずは多くの人に国産木材の正確な金額と特性をしっかりと理解してもらおう。そして暮らしの中で使ってもらおうことで、その良さを実感すれば、循環の輪が回り出すのではないかと私はそう考えました。

でも、そのための対案となると難しい。多くの林業関係者がどうやって需要を増やそうかと考え続けてなお、決め手は見つけられていないのですから。

そんな折、東京工業大学工学部で建築を学ぶ弟が帰省した時、つぶやいた一言を思い出しました。

「お父さん。大学に行ったのはいいけれど、木造のことを教えてくれる先生なんておらんよ」

(NPO法人「森林をつくらう」理事長、佐賀県神埼市)



産地価格で1万円分の杉丸太(樹齢50年)